

体系的科学的な新しい漢字学習

石井方式では、「漢字で教える」と言って「漢字を教える」ということを避けていますが、“漢字を教える”ことを全く否定しているわけではありません。

ただ初めは、“新出漢字”という改まった漢字学習ではなくて、「新しい言葉を、漢字で学習する」という考え方で、学習の目的を言葉におき、漢字はその学習のつげたりにすぎないというように気軽に扱い、読む機会を反復することによってその認識を深めていく、という方法をとって、読める漢字の数をふやすことに努めます。

読める漢字の数がふえると、これを整理しまとめます。

意味の似たもの、反対のもの

字形の似たもの(休 体)

発音の似たもの(暑い 熱い)(険 険)

同じ仲間のもの(口 目 耳 鼻)

ついで、“部首”による**体系的**、科学的な漢字学習に進みます。

漢字の大部分は、“部首”と呼ばれる部品の組み合わせによってできています。たとえば、当用漢字は1850字ありますが、それに使われている部首は192個です。192個の部品がいろいろに組み合わせられて、1850字の漢字ができあがっているのです。

だから、192個の部品のもつ意味や性格を、その本質からよく理解していくなれば、1850字の当用漢字はもちろん、それに数倍する量の漢字の意味、読み方まで、おおよそ推察することができるのです。

たとえば、「整」という漢字は、「束」「女」「正」の三つの部品によって組み立てられています。これは、さらに、「束 = 木、口(輪の形)」「女 = ノ(棒またはむち)、又(手)」「正 = 一(線)、止(足の形で、とどまる意)」と、それぞれ二つの部品によってできています。

「束」は、**木**に**輪**をかけて“たば”ねる。「女」は、**手**に**棒**を持って“たたく”「正」は、**止**まるべき**線**に止まる、つまり“たしい”意味を表わしています。

だから、「整」は、木を**束ね**て、不ぞろいになった所を**たたいて**、きちんと**正しく**することを表わした字であることが、その部首を見ればわかります。

漢字は確かに字形が複雑で、機械的にかむしゃらに覚えようとしたらむずかしいものがあります。しかし、その部品である“部首”を一つ一つ理解して、これを論理的に学習するなら、これほどやさしく、楽しく覚えられて、しかも忘れにくい文字はありません。

「棋 期 基 箕」……其

「募 暮 墓 慕」……莫

複雑に見える漢字も、右のように整理してみますと、共通した部分があり、それぞれの発音を表わしており、その上、その言葉としての基本的な意味をもっていて、それをおさえて学習すると、漢字の複雑さは、困難どころか学習を助けることがわかります。

このような、**体系的**、科学的な漢字学習法が、従来の漢字学習には見られませんでした。私は新たにこれを打ち立てて、こういう学習をすべきだと提唱しているのです。